



水産物の消費拡大へ「さかなの日」制定 SAKANA&JAPAN PROJECTが参画

水産物の消費量の減少傾向が続くなか、水産庁は、官民協働で消費快諾に向けた取り組みを推進するため、「さかなの日」を制定しました。語呂合わせで、毎月3～7日（さかな）を「さかなの日」とし、特に11月3～7日を「いいさかなの日」強化週間として、水産物の消費拡大の取り組みを実施します。日本の大切な食文化で、栄養豊富な魚食の推進を目的に産経新聞社が実施している「SAKANA&JAPAN PROJECT」では、「さかなの日」の賛同メンバーとして、この取り組みに参画します。

「さかなの日」は、「さかな×サステナ」をコンセプトに掲げ、魚を選んで食べることがSDGs（持続可能な開発目標）の「持続可能な生産消費形態を確保する」（目標12）につながるとしています。

SAKANA&JAPAN PROJECTでは、2017年に3月7日を「さかなの日」として記念日登録。「3（さん）か、7（な）が付く日は魚を食べよう」をキャッチフレーズに、さまざまな魚食推進の取り組みを展開しています。11月17～20日には、東京都千代田区の日比谷公園で、全国各地の魚介料理が堪能できるイベント「第8回ジャパン フェスティバル2022～全国魚市場&魚河岸まつり～」（主催・SAKANA & JAPAN PROJECT ジャパン フィッシャーマンズ フェスティバル実行委員会）を開催します。姉妹イベントやスピンオフイベントを合わせると累計来場者数が100万人を超える日本最大級の魚介料理に特化したフードフェスティバルです。東日本大震災からの復興応援を目的に、「常磐もの」と呼ばれる福島県の海の幸を味わえる「発見！ふくしまお魚まつり」（主催・発見！ふくしまお魚まつり実行委員会）も同時開催します。

